

目的

白さには蛍光増白された白さ、蛍光を施さない白さ、色味を有する白さがあり、その範囲はかなり広い。白さという心理量を物理的に測定する評価方法について検討してきた。今回は白さについて純度弁別の閾値であらわし、心理的な立場より検討した。

方法

ほぼ等間隔に選定した色相の明度9、彩度2とJIS標準色票を参照し、蛍光、無蛍光の試料を作製した。この明度9、彩度2と白色臭の間に純度段階を挿入し、滑らかにつながるようにした。純度次元上の弁別力と極限法により測定し、これより感覚尺度構成とあわないCIE色度図上に等弁別閾線と插した。そしてある色相の白さと隣接する色相の白さの一致する位置と順次求め、等白色度線を示し、等弁別閾線と比較した。

結果

無蛍光の場合、G, BG, B系統の純度弁別閾はR, YR, Y系統に比較し小となる。蛍光の場合、いずれの系統とも無蛍光に比して一般に小となる。等弁別閾線は等白色度線とやや類似しており、白色度を示す一つの便法となるものと思われる。